

令和8年6月12日（金）【秩父市長 職員向けメッセージ】

職員の皆さま、おはようございます。

日頃から秩父市民の皆さまのより良い暮らしの実現に向け、それぞれの持ち場で職務に励んでいただいておりますことに、心より感謝申し上げます。

本日は、「危機管理」についてお話をさせていただきます。

私が昨年5月に市長に就任して以来、秩父市では土砂崩れや落石、複数の車両のスリップ事故、さらには大規模な山林火災など、さまざまな災害や緊急事案が発生してまいりました。

その都度、職員の皆さまには強い使命感と緊張感を持って対応していただきました。改めて、心から感謝申し上げます。

また、先日の台風6号への対応についても、総務部危機管理課を中心に事前の備えや情報共有に努めていただき、ありがとうございました。

秩父市においては大きな被害の発生には至りませんでした。一方で、私たちが姉妹都市協定や防災協定を結んでいる東京都の豊島区、荒川区、足立区、江東区などでは、厳しい状況に見舞われた地域もありました。

近年は気候変動の影響もあり、水害をはじめとする自然災害が激甚化・頻発化しています。今後は、協定に基づき自治体間で相互支援を行う場面が生じる可能性も十分に考えられます。

これから本格的な台風シーズンを迎えます。秩父市は首都圏の平野部と比較すると大規模な水害や地震による被害リスクは相対的に低いと言われていています。しかし、土砂災害や倒木、道路の寸断など、市民生活に影響を及ぼす災害はいつ発生してもおかしくありません。

私は、住民の皆さまに最も身近な行政機関である最大の使命として、市民の命と財産を守り切ることが、市役所の大切な役割であると考えています。

非常時の対応力を高めるために必要なのは、マニュアルや訓練だけではなく、平時からのコミュニケーションと備えが重要であると考えます。部署内はもちろん、部局を越えた連携や情報共有、人と人との顔の見える信頼関係が、いざという時の組織の力になるでしょう。

職員の皆さまには、日々の業務の中で、「もし今、大きな災害が発生したらどう行動するか」という視点を少しだけ意識しながら仕事に取り組んでいただきたいと思います。

また、私たち一人一人が、自分や家族の非常時の対応などを整理しておくことも大事だと考えます。

忙しい毎日ではありますが、ぜひ一度、ご自身やご家族を守るための備えについても考える時間をつくっていただきたいと思います。

これからも市民の皆さまの命と暮らしを守るため、心合わせて危機管理に取り組んでまいります。ありがとうございました。